

身延線39駅 唱歌で行こう♪

富士宮市民らCD化

「鉄道唱歌」でJR身延線沿線のまちおこしを図ろうと、富士宮市の市民らが静岡、山梨両県にまたがる沿線の情景を歌詞に折り込んだ「身延線鉄道唱歌」を作ってCD化した。1月29日、その完成を記念するお披露目会が市内で開かれ、新たなふるさとの歌を約300人の市民が合唱した。

「汽笛一声新橋を」で知られる「鉄道唱歌」は、東海道線をはじめ全国各地の路線にまつわる歌詞が明治時代に作られた。



①「身延線鉄道唱歌」を披露する富士宮女声合唱団と元車掌の山田修三さん（左）
②あいさつする作詞者の小沢肇さん（いずれも富士宮市宮町の市民文化会館）

身延線（富士駅—甲府駅）は1928年（昭和3年）に全面開通。「身延線版」の鉄道唱歌は、身延線が走る山梨県南部町出身で富士市在住の小沢肇さん（92）が、会社員時代に通勤に利用していた身延線の電車に乗りながらコツコツと作詞した。

存在を知った富士宮市民有志らが「この歌を広めてまちおこしに使おう」と、元JR富士宮駅長の桜井守さん（74）を会長に据え、「身延線鉄道唱歌の会」を発足させた。会では、小沢さんの詞の中に史実などの誤りがないか精査したり、「沿線すべてのまちおこしにつながるように」と詞に含まれていない駅名をナレーションの形で折り込んで、全39駅が入った歌を

完成させた。

1番が「汽笛一声富士駅を我が乗る列車離れたり 三十九駅九十九キロ 普通列車の旅とせん」で、最後の17番「時は人を替えれども 山梨静岡両県の明るく平和な郷づくり 身延線と共に栄えあれ」で結ぶ。

CD化は、今年度の市の「市民活動促進事業」の一つにも選ばれ、15万円の補助金が支給された。

29日、会場の市民文化会館は立ち見も出る盛況。CDに収録された富士宮女声合唱団、ギター弾き語りの村瀬きょうこさんがそれぞれの歌を披露し、市内在住で身延線の車掌を約10年務めた山田修三さん（67）が往年の制服姿でアナウンスし、会場を盛り上げた。

登壇してあいさつした作詞者の小沢さんはCD化について「ありがたいことです」と喜びを口にした。

会ではCDを市内の全小中学校、高校などに配布。希望者は事務局・松田さん（080・7012・6024）へ。有料400円。（六分一真史）